四万十の水辺 八十八カ所めぐり

下流の水辺　中流の水辺　上流の水辺

1 噴水とモニュメント（中村駅）

四万十市の中村駅前には、「日本最後の清流」と呼ばれる四万十川をイメージしたモニュメントが造られています。

2 安並水車の里（四ヶ村溝）

水田脇を流れる用水路「四ヶ村溝」（長さ160m、幅11m）は、江戸時代初期の土佐藩家老 野中兼山が拓（ひら）いたもので、かつて設置されていた水車が多数復元されています。6月にはアジサイ、10月中旬～11月上旬にはコスモスが彩りを添えます。

3 せせらぎ水路

高知県幡多総合庁舎前から中村大神宮前まで「せせらぎ水路」が整備されています。水路には四万十川の水が引き込まれ、下流の丸の内川の水質改善にも役立っています。

4 百笑堤

地区の名称「どうめき」には、「川瀬の音がどよめく」という由来と「百人が笑うとどよめきが起こる」という二つの由来があります。ここから見る夕日は格別で、春には対岸に咲く菜の花が一望でき、人々の目を楽しませてくれます。

5 舟母の湊

舟母は、明治から昭和にかけて流域の人々や物資を運んでいた帆掛け舟です。復元された舟母が観光客を乗せ川面をゆっくりと走る姿は、四万十川ならではの風情を醸し出しています。

6 赤鉄橋

四万十川橋は大正15（1926）年6月30日に竣工した、四万十市中村地区の中心部にある橋です。橋と川の景観が見事にマッチしており、別名「赤鉄橋」の名でも親しまれています。

7 とんぼ自然公園

世界初のトンボ保護区で、70種を超えるトンボが生息し、同規模の環境としては種類・密度とも日本一を誇っています。公園内の四万十川学遊館「あきついお」では、世界のトンボ標本約1,000種と、アカメなど四万十川に棲む魚や、日本や世界の淡水・汽水魚約300種が展示・飼育されています。

8 入田柳林

四万十川橋（通称：赤鉄橋）の上流に広がる長さ約2km・幅150～200mほどのヤナギ林です。アカメヤナギやヨシノヤナギなどが芽吹く春には、一面菜の花で覆われ、「菜の花まつり」が開催されます。高知県希少野生動植物に指定されているマイヅルテンナンショウの自生地もあります。

9 平元の樹林

舟母（せんば）の発着場となっており、その姿と四万十川の雄大な景色が相まって心が癒されます。司馬遼太郎の『竜馬がゆく』には、坂本龍馬が四万十川の河川工事に携わったとあり、平元の堤（現在の「桜づつみ公園」）の工事を行ったのではないかといわれています。

10 佐田の沈下橋

■架橋年：昭和46（1971）年
■橋　長：291.6m　■幅　員：4.2m
正式名称は「今成（いまなり）橋」。「最後の清流」四万十川の最も下流にある、最も長い沈下橋です。四万十川には47の沈下橋が架かっていますが、ここはとても有名で、観光スポットになっています。

11 三里の沈下橋

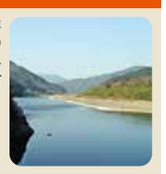
■架橋年：昭和38（1963）年
■橋　長：145.8m　■幅　員：3.3m
四万十川の河口から20kmくらい上流にあるこの沈下橋の周囲には、民家などがほとんどなく、多くの自然が残っています。市街地の喧騒から離れて、夕映えの絶景をゆっくりと楽しむことができます。

12 三里舟着場

船着き場付近は川の水が大変きれいで、付近を運行している屋形船に揺られながら、四万十川でとれたアユ・川エビ・ゴリ・天然ウナギなどを味わうこともできます。

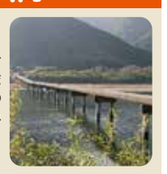
13 川登

昔懐かしい里山が広がり、春には鮮やかな新緑が川面に映えます。カヌーツーリングやキャンプなどのアウトドアレジャーや、アユや川エビ、ツガニといった川の幸を堪能できます。



14 高瀬の沈下橋

■架橋年：昭和48（1973）年
■橋　長：232.3m　■幅　員：3.4m
初夏のホタル見物、夏のキャンプなど、たくさんの観光客でにぎわいます。「ホタル船」（要予約）で自然の夕景を見ながら川魚料理に舌づつみを打ち、ホタルを観賞できます。



15 かわらっこ

「四万十カヌーとキャンプの里 かわらっこ」は、豊かな自然に囲まれたオートキャンプ場で、清流四万十川を望む全面芝生張りのキャンプサイトを下れば、緩やかな流れが広がり、初心者でも気軽にカヌー体験を楽しめます。カヌーは約100艇用意されています。

16 あかめの道（井沢～鍋島 5km）

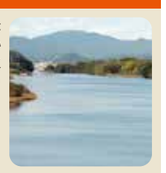
196kmの長い旅を終え、太平洋に流れゆく四万十川。下流の淵には今では希少になったアカメがひっそりと棲んでいます。アカメは最大2m近くになり、その名のとおり赤く光る目を持っています。この小道を歩けば、伝説の魚に出会えるかもしれません。

17 大師の渡し

「あかめの道」を抜けると弘法大師を祀（まつ）った大師堂があり、かつてはここから対岸の山路（やまち）に向けて渡し舟が出ていました。川幅が広いため、「渡し賃」は他県よりも高かったようです。水量により渡し賃が変わり、渇水期には十八文（もん）、大水の時は百文との記録があります。

18 大島

昔は農地として利用されていましたが、今では動植物の楽園になっています。大島の西側を流れる静かな水路では、昔からアオノリ（ヒトエグサ）の養殖が盛んに行われています。



19 初崎渡し

四万十川の河口部、下田～初崎（約1km）の渡しは約80年続き、平成17（2005）年12月31日の便を最後に廃止となりましたが、地域住民らの手により、平成21（2009）年4月に復活しました。不定期ではありますが、申し込みがあれば運行しています（有料）。

20 水戸柱さん

四万十川の最も河口（海から四万十川を遡上する際の玄関口）にある神社です。海と川の漁師の神様が一緒に住んでいます。

21 山路渡し

「日本最後の清流」四万十川の雄大な川の流れを、山路から竹島へ向け、かつては渡し舟が渡っていました。

22 やすらぎの公園

四万十川の支流である後川沿いに「田野川やすらぎの里公園」があります。大木に育った河畔林の中はとても長閑（のどか）でゆったりとできる場所です。

23 兼山の麻生ぜき

江戸時代初期の土佐藩家老 野中兼山が造った堰です。秋田・安並・佐岡・古津賀の四ヶ村を灌漑（かんがい）するために四万十川の支流後川の麻生に造られたものです。

24 森沢渡し

四万十川の支流の中筋川を渡る大切な渡し舟でした。森沢付近では「ツルの里づくり」が地域の手によって行われており、冬になると周辺の水田にナベヅルやマナヅルが飛来します。

25 勝間沈下橋

■架橋年：昭和40（1965）年
■橋　長：171.4m　■幅　員：4.4m
橋脚が3本ある珍しい沈下橋で、映画「釣りバカ日誌14」（2003、松竹）のロケ地にもなりました。

26 学童の渡し（久保川地区）

四万十市久保川地区に住む児童が、川の対岸にある勝間小へ登下校する際に利用していた手こぎの渡し舟。児童減少のため、平成14（2002）年3月に120年続いた歴史に幕が閉じられました。

27 久保川休憩所

四万十川を見下ろすことができ、久保川地区で一番の景勝ポイントです。春は岩場に生えるツツジ、夏はホタルや「アユの火振り漁」を見ることができます。

28 口屋内沈下橋

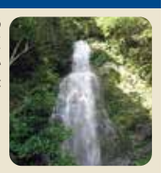
■架橋年：昭和30（1955）年
■橋　長：241.3m　■幅　員：4.05m
正式名称は「屋内大橋（やないおおはし）」。秘境 黒尊渓谷へと続く沈下橋で、夏には近くで「アユの火振り漁」が行われます。

29 二子松の紅葉

玖木（くき）地区の二子松の紅葉は黒尊川流域の見どころとなっており、清流に映し出される緑と紅のコントラストが魅力的です。夏にはホタルが舞う美しい景色が見られます。

30 お菊の滝

「お菊の皿（幡州皿屋敷（ばんしゅうさらやしき））」の伝説が西土佐地区の奥屋内（おくやない）にも残っています。滝の側にはお菊をイメージした観音様が立っています。



31 奥屋内小学校

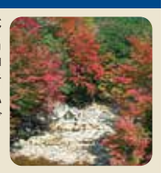
奥屋内小学校は明治7（1874）年に発足し、最盛期の昭和36（1961）年には167名の児童が学んでいました。平成12（2000）年に休校となり、現在は地区の活動の場などに使われています。

32 黒尊神社

「山津見神社」とも呼ばれ、熊野神社の流れをくむ格式の高い神社です。境内にある大杉の樹齢は推定500年以上とされ、樹高40m、胸高直径3.4m、根回り9m、枝下13mの威容を誇っています。

33 神殿橋

黒尊渓谷は、夏場でも冷たさを感じる清く澄んだ渓流で、秋は紅葉の名所として知られています。特に、神殿橋から眺める景色は、周囲の樹木がフレームとなり一幅の絵を見ているかの様に、均整のとれた美しさがあります。

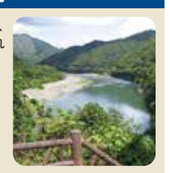


34 黒尊渓谷ブナの原生林

四万十川支流で最も「清流度」（透視度）が高い黒尊川を登っていくと四国最南端のブナ林があり、静寂感が漂う自然林が広がります。

35 中半休憩所

四万十市と江川崎の中間点にあり、庭園風の展望所からは緩やかに流れる四万十川が広角度で望めます。



36 岩間沈下橋

■架橋年：昭和41（1966）年
■橋　長：120.0m　■幅　員：3.5m
水辺と調和したこの沈下橋の風景は、四万十川で最も美しいといわれています。沈下橋から直接河原に降りられ、カヌー遊びやキャンプに最適な場所です。

37 白岩竜神淵

西土佐地区で毎年10月29日に「みこし渡し」が行われています。神事の後、四万十川右岸の八坂神社の神様を移したサカキと、対岸の白岩神社の神鏡を、神輿の中に入れて川舟で渡す行事です。

38 日本一のモミの木（津賀）

壇ノ浦の戦いで敗れた平家一門の新玉丹後（あらたまたんご）兄弟3人が津賀に住み着き、集落を魔神から守ったといわれています。この3人を祀ったモミの木で、樹齢300年（推定）、幹の太さは約7.8m。日本で一番太い幹回りと認定されましたが、平成25（2013）年8月に倒れ、今はもう姿を見ることはできません。

39 須崎の沈下橋

四万十川流域で一番短いといわれている沈下橋で、少しでも増水すると、川の中へ沈んでしまいます。

40 大宮の大岩

淵にある岩が二つに割れ、そこから隣の谷を流れる黒尊川の奥屋内（おくやない）へ通じているといわれています。

41 藤ノ川の飛び石

地域の人々の生活が感じられる藤ノ川の飛び石橋。今でも生活道として使われています。

42 四万十・川の駅（カヌー館）

初心者対象のカヌースクールや、約8km下流の岩間沈下橋までのカヌーツーリングは大人から子どもまで好評です。敷地内の「四万十ひろばキャンプ場」ではバーベキューも楽しめます。

43 長生沈下橋

■架橋年：昭和35（1960）年
■橋　長：120.0m　■幅　員：3.3m
沈下橋からは川底が望め、水泳など川遊びに最適な場所です。夏場はキャンプ地としてにぎわいます。

44 君が淵

壇ノ浦の戦いに破れ住み着いた平家の若者と恋に落ちた地元の娘が、身分の違いで結ばれることなくこの岸壁から身を投げた切ない恋物語の伝承が残されています。国道から近隣の中州「古小島」も眺望できます。

45 白綾の滝

山麓から発した水流が滝口より高さ10m余を懸崖直下（けんがいちょっか）する様は壮観で、増水時には滝のしぶきで虹を描きます。春にはツツジが咲き、5月からは県鳥のヤイロチョウを見ることができます。

46 道の駅「四万十とおわ」

土佐漆喰（しっくい）を基調に県内産のスギ・ヒノキをふんだんに使った純和風の建物内の「とおわ市場」や「とおわ食堂」では、十和（とおわ）地区ならではの川の幸・山の幸を楽しめます。展望デッキからは四万十川の絶景を堪能できます。

47 こいのぼりの川渡し

日本の「こいのぼりの川渡し」の発祥の地です。毎年、4月中旬～5月中旬には、約500匹が四万十川の上空を舞う姿が見られます。

48 龍王の滝

二段に落ちる滝で、正面からの姿と、近くの龍王神社から見下ろした姿の、二通りの景観を楽しめます。滝の周りには何ともいえない神秘的な雰囲気が漂っています。

49 三島キャンプ場

四万十川最大の中州にあるキャンプ場で、テントサイトやバンガローがあります。水遊び、カヌーやラフティングなどのアウトドアを楽しめます。

50 茅吹手沈下橋

■架橋年：昭和45（1970）年
■橋　長：84.0m　■幅　員：3.0m
正式名称は「新谷（しんたに）橋」。かつては渡し舟が運行されていました。流れが穏やかで、河原はキャンプに最適です。JR「フルムーン」のポスターにも採用され、四万十川の代表的な沈下橋として知られています。

51 里川沈下橋

■架橋年：昭和29（1954）年
■橋　長：84.0m　■幅　員：3.0m
当初橋脚は13本でしたが、洪水の激流によりたびたび流失したため、中央部を1本空けて復旧されました。洪水の猛威の中から生まれた独特な形の沈下橋です。

52 久木ノ森山風景林

旧大正町の中津川の渓谷沿いに約16万㎡の面積を持つ貴重な森林域です。ヒノキの高齢木・複層林・混合林のモデル林として保護・育成された風景林は、未来に伝えるべき重要な森林です。

53 津賀ダム

昭和19（1944）年に四万十川最大の支流である梼原川に造られた発電用ダムです。電力は新居浜の工場向けのものでしたが、送電されたのはわずか1年足らずでした。周辺地域に供給されるようになったのは、終戦後の昭和23（1948）年のことです。

54 下津井めがね橋（ウォーキングトレイル）

正式名称は「町道下道下津井線佐川橋」。佐川山の国有林と旧大正町を結んでいた森林鉄道の鉄道橋跡です。藩政期の御留山（おとめやま）を基盤に展開された国有林事業の歴史を伝える建造物です。

55 八百とどろ

梼原川の中平から松原の間に長く続く、岩が裂けたような急流。岸辺にはトサシモツケが群生し、5月頃に白く可憐な花を咲かせます。下流の久保谷渓谷には森林セラピーロードが整備されています。

56 観音谷のゴンドラの渡し

その昔は対岸に人家や農地があり、また大古味（おおこみ）地区にはお宮があったため、頻繁に活用されていました。現在も数戸の農家が農作業や山の管理に利用していますが、管理者以外は使用禁止となっています。

57 高野の廻り舞台・三嶋神社

わが国唯一の鍋蓋上廻（なべぶたうわまわ）し式舞台。国の重要有形民俗文化財に指定され、4年に一度、地区の人々によって農村歌舞伎が上演されます。また、三嶋神社では、11月に重要無形民俗文化財の津野山古式神楽が奉納されます。

58 堂の口開け祭り（大わらじ）

600年以上前から続く伝統行事で、毎年2月末に宮谷地区の住民が明王寺薬師堂に集まり、大わらじと大注連縄（おおしめなわ）を作ります。地区の入口に魔除けとして飾られるわらじの大きさは、縦2m、重さ200kg超にもなります。

59 北川川の近自然河川工法

「近自然河川工法」は、河川の環境や生態系を復元するための工法です。昭和56（1981）年、集落用地を確保するために行われた河川改修で落差が生じたため、魚が自由に行き来できるように近自然工法で再改修しました。

60 早瀬の一本橋

四万十川の沈下橋の原型といわれ、流れ橋とも呼ばれます。長さ9m、幅60cm、厚さ30cmほどの木の板3枚でできた橋で、古来より地域間の行き来のため、重要な役割を担っていました。

61 長沢の滝

四国カルスト・天狗高原に向かう途中にある滝で、落差は34m。針葉樹の緑に包まれ、ハート型に削れた穴から一気に流れ落ちる滝のしぶきや黒く光る岩肌、青々と水をたたえた深淵の景観は、手前にある橋とともに一枚の絵のようです。この滝に願いを込めると恋が叶うとか…!?

62 不入渓谷

不入山の四万十川源流点の裏側にあたる、北川川支流の渓谷。かつて、木材を流すためにお堂を建てて祀ったことから、「堂立て渓谷」の別名があり、渓谷の上流には落差36.2mの「長樽の滝」があります。春のアケボノツツジや秋の紅葉が映える場所です。

63 仲久保沈下橋

■架橋年：昭和58（1983）年
■橋　長：30.0m　■幅　員：2.2m
四万十川の支流梼原川に架かる沈下橋で、梼原町中心部と対岸の仲久保集落を結ぶ橋として、かつては多くの人が利用していました。

64 仲間沈下橋

■架橋年：昭和48（1973）年
■橋　長：42.0m　■幅　員：1.5m
国道197号沿いに位置し、四万十川の支流の四万川川（しまがわがわ）に架かっている沈下橋。この場所はアユの漁場としても人気があります。

65 竹の藪沈下橋

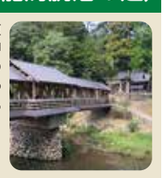
■架橋年：昭和54（1979）年
■橋　長：30.2m　■幅　員：2.0m
国道197号から県道2号線に入って最初の沈下橋。橋のたもとには民家があり、子どもたちが川遊びを楽しむ姿が見られます。橋の下を流れるのは梼原川の支流四万川川（しまがわがわ）です。

66 川角橋

■架橋年：昭和35（1960）年
■橋　長：29.9m　■幅　員：2.3m
梼原川の支流四万川川（しまがわがわ）に架かる沈下橋で、かつては多くの人が利用していました。この川の上流には坂本龍馬が脱藩した韮ヶ峠（にらがとうげ）があり、現在も彼を慕う人々が伊予の国（愛媛県）へと歩いています。

67 三嶋神社（坂本龍馬脱藩の道）

三嶋神社では、秋の神祭に国の重要無形民俗文化財である津野山神楽が奉納されます。坂本龍馬はこの神社の裏山を通って脱藩したといわれ、現在も往時を偲ばせる道が残っています。



68 千枚田（神在居の棚田）

司馬遼太郎が「農民の大遺産」と絶賛した棚田で、日本の棚田オーナー制度発祥の地。開発起源は中世（平安～室町）ともいわれ、「四万十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田」（文化庁）、「日本の棚田百選」（農林水産省）、「かおり風景100選」（環境省）にも選ばれています。

69 中古屋橋

■架橋年：昭和34（1959）年
■橋　長：30.0m　■幅　員：2.8m
四万十川の支流梼原川に架かる橋で、梼原町の中心部から国道440号に沿って移動すると最初に見える沈下橋です。梼原町の沈下橋の中でも訪れる人の多い橋です。

70 道の駅「四万十大正」

国道381号と439号の合流地点にある道の駅で、農林産物直売所やミュージックトイレなどがあります。近くの轟公園内には、石の風車やフィールドアスレチック、屋外ステージのほか、縄文・弥生の土器や石器を展示している郷土資料館があります。

71 上岡沈下橋

■架橋年：昭和38（1963）年
■橋　長：60.0m　■幅　員：3.7m
正式名称は「向山（むかいやま）橋」。水の抵抗を考慮して曲線を取り入れた美しい形状の沈下橋で、川と橋のデザインが良く調和し、優れた景観を創出しています。

72 上宮橋

■架橋年：昭和32（1957）年
■橋　長：85.1m　■幅　員：2.9m
四万十川の右岸の旧大正町北ノ川集落と左岸の上宮集落を結ぶ沈下橋です。橋が架けられる前は渡し舟が運航されていました。

73 向弘瀬橋

■架橋年：昭和38（1963）年
■橋　長：62.1m　■幅　員：2.5m
集落を分断する形で流れる四万十川に架かる向弘瀬橋は、地域の生活を支える重要な橋です。左岸側には河原へ下りるスロープがあり、夏は子どもたちの川遊びでにぎわいます。

74 家地川取水堰

昭和12（1937）年に発電所の取水堰として完成しました。四万十川の水は、ここから導水路トンネルを経て黒潮町にある佐賀発電所に送られ、その後、四万十川とは別水系の伊与木川に放流されます。

75 一斗俵沈下橋

■架橋年：昭和10（1935）年
■橋　長：60.6m　■幅　員：2.5m
四万十川に現存する沈下橋で最も古く、平成12（2000）年に国の登録有形文化財に指定されました。壱斗俵（いっとひょう）集落と米奥（よねおく）集落とを結び、通学や買い物など日々の往来に利用されてきましたが、現在は老朽化により車両は通行止めとなっています。

76 法師ノ越水路

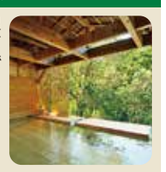
明治23（1890）年の大洪水で壱斗俵（いっとひょう）と市生原（いちうばら）の両集落に通じる灌漑（かんがい）用水路が破壊されたため、市生原の住人である野村成満は、法師ノ越山に水路トンネルを抜く方法を考え、農民を説いて資金を募り工事を始めましたが、途中で資金が足りなくなり、私財を投じて難工事を完成させました。

77 森が内風景林

藩政期の御留山（おとめやま）を引き継ぐ国有林で、当時植えられたヒノキなどの大木が林立する優れた風景林です。林内で見られる牧野富太郎ゆかりのバイカオウレンは、土佐で真っ先に春を告げる花の一つとされ、高知県立牧野植物園のロゴマークになっています。

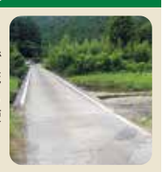
78 松葉川温泉

日野地（ひのじ）川の渓谷に湧く温泉で、江戸時代から既に霊泉として知られ、四国でも指折りの泉質です。露天風呂からは、春は新緑、夏はホタル、秋は紅葉、冬は雪と、四季折々の景色を楽しめます。



79 長野沈下橋

■架橋年：昭和39（1964）年
■橋　長：56.0m　■幅　員：3.0m
中土佐町にある3つの沈下橋の中で一番下流にあり、周辺には清流が流れる山里の風景が広がっています。しっかりした構造の橋で、現役で使用されています。



80 天満宮前キャンプ場

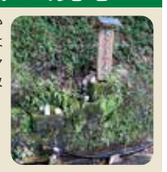
四万十川河畔にある初心者向けのキャンプ場で、春から秋にかけて多くのアウトドア客でにぎわいます。夏休みの期間は中土佐町大野見地区で一番の人口過密地帯となります。

81 久万秋沈下橋

■架橋年：昭和39（1964）年
■橋　長：49.0m　■幅　員：3.0m
四万十川本流にかかる上流から2番目の沈下橋です。久万秋集落と奈路集落を結び、地域の生活道として重要な橋です。周辺にはキシツツジの群生地があります。

82 銘水久万秋の湧水

岩間からしみ出る湧水は、まろやかな軟水です。この水で入れたお茶は味、香りともすばらしいと評判でファンも多く、近隣市町村からも水を汲みにやってきます。

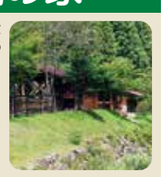


83 島ノ川渓谷

島ノ川渓谷は一年中自然の恵みにあふれ、特に秋は澄みきった水と紅葉が美しく、心洗われる風景が広がっています。

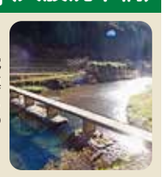
84 四万十源流の家

野鳥のさえずりや渓流の音が心地よい宿泊施設で、地元で採れた旬の食材を使った食事を提供しています。



85 高樋沈下橋（大股沈下橋）

■架橋年：昭和40（1965）年
■橋　長：30.1m　■幅　員：1.5m
四万十川本流に架かる最上流の沈下橋で、他の沈下橋に比べて規模が小さく、デザインもシンプルです。対岸の農地へ行くために、地元の方々に利用されています。

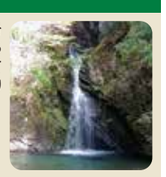


86 稲葉洞

四万十川の源流部に位置する鍾乳洞で、三つの洞からなり、長さは数百mに及びます。洞窟は側を流れる四万十川の川底より低い場所もありますが、渇水時には中に入ることができます。近くの渓流では、清流にしか自生しない珍しい「セイラン」（カワノリ科の植物）が見られます。

87 追合の滝

四万十川源流点にほど近い県道沿いの遊歩道を下ると谷底に現れる滝。平家の落人（おちうど）が逃れてきて身を投げたとの言い伝えがあります。



88 四万十川源流点

山紫水明（さんしすいめい）の地から発する流れが数々の支流の水を集め、蛇行を繰り返しながら幾多の生物の命を育み、太平洋に至る…「日本最後の清流」の原点がここにあります。

【発行・お問合せ】
四万十川自然再生協議会
事務局：0880-35-3308
（西部測量設計事務所 受付）

※画像提供：国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所、押岡茂紀氏、芳之内祐司氏
※助成支援：（一社）四国クリエイト協会
平成31年2月作成